広報誌

ある群像

2024年12月号

公益社団法人 好善社

東京都目黒区中町1−7−4
〒153−0065
電話：03−3712−3845
Fax：03−3791−1150

2024年11月25日
発行 加藤裕司
編集 川﨑正明
岡本緒里

国立療養所大島青松園の「キリスト教大島霊交会礼拝堂」 2024/2/25 撮影／川﨑正明

最後のひとりまで

全国13か所の国立ハンセン病療養所の中には、29のキリスト教の教会があります。カトリック、聖公会、プロテスタントと、教派は色々ですが、以前は毎週日曜日にそれぞれの教会で、外部からの方もしばしば加えて、祈りと讃美の声が響いていました。時が流れ、全国の入所者は2024年5月1日現在で718人となっています。それに伴い礼拝出席者も激減し、会堂で礼拝を続けることが困難な状態です。そのため、別の集会室や入所者の部屋で礼拝を守るようになってきました。たとえひとりになっても、毎日曜日に礼拝を守っている教会もあります。好善社は、礼拝に出席できない方々を訪ね、共に祈り、聖書の言葉に耳を傾け、讃美歌を一緒に歌い続けたいとつよく願っています。

誰もいなくなり、ひっそりと佇む教会堂からは、かつて礼拝を共にして天に召された方々の力強い祈りの声が今にも聞こえてきそうです。この尊い信仰の証をこれからの人に伝えることも、好善社の大切な役割と考えています。

代表理事　加藤裕司

療養所には歌がある ①

かつての療養所では、カラオケが盛んでした。カラオケ大会では、素敵な衣装を身にまとい、マイクを握って熱唱された。園歌はもちろん、入所者が作詞作曲した歌など、歌うことが生き甲斐でした。それらの歌を順次紹介します。（編集部）

十九の春

作詞：星塚敬愛園・大迫秀雄
（沖縄民謡「十九の春」の替え歌）

1
私が敬愛園に入ったのは、
ちょうど十九の春でした。
一生治らぬ病だと、
言われて枕が濡れました。

2
夜中に腹へって眠られず、
国の母さん思い出し、
どうして病気にしたんだと、
親をうらんで泣きました。

3
ノミやシラミやカイセンや、
これが私の友でした。
畳じゃかゆくて眠られず、
みんな板間でゴロ寝した。

4
熱こぶ神経痛虹彩炎、
これが私の病です。
大楓子注射も効き目なく。
変な体になりました。

5
無断外出見つかれば、
暗い監禁入れられて、
寒い真冬に火もなくて、
梅干しひとつがオカズです。

6
長い闘い終わりたり、
われらも人権与えられ、
新薬プロミン現れて、
治る病気となりました。

7
やっと予防法廃止され、
外出自由となりました。
ゲートやカラオケ楽しんで、
みんな明るくなりました。

じんせい103さいまるもうけ

（お座敷小唄の節で歌う）
宮古南静園の前泊サダさん（103歳）に、職員から贈られた歌

1
なせばなるなる　なにごとも
なせねばならない　なにごとも
くろうつづきの　じんせいも
かならず　しあわせ　かちとると

2
きぼうをもって　いきてきた
いつ～のまにやら　103さい
カラオケ・いろボケ　カネはなし
わたしのじんせい　ボ～ケません

3
にんち　よぼうは　かいわです
かいわのないひと　ぼけますよ～
わたしの～おせわ　よろしくね～
ゆいま～るじんせい　よろしくね～

4
ながいきじんせい　ま～るもうけ～
しあわせじんせい　ま～るもうけ～
みんなにであえて　ま～るもうけ～
さ～んどのしょくじに　ま～るもうけ

5
にゅうしょしゃみなさま　ありがとね
かぞくの　みなさま　あ～りがとね～
しょくいんの　みなさま　ありがとね
おむかえ　くるまで　よ～ろし～くね

園歌（多磨全生園）

作詞：桜井 方策
光田健輔補訂
作曲：橋本けし子

1
あしたに仰ぐ不二の山
ゆうべに映ゆる秩父の嶺（ね）
空より広き武蔵野の
中に我等の住いあり

2
めぐみも深き聖代（せいだい）に
基をおきて幾星霜（いくせいそう）
歴史を語る松風は
福音高くつたうらん

3
その名を聞けや全生の
住まふ村人とこしえに
心の望みいだきつつ
共に楽しく集いなん

♪#♪#♪#♪#♪#
#♪#♪#♪#♪#♪

随想随感

人としての輝きを求めて

藤井征子

ハンセン病療養所との出会い、それは人と人との出会いとも言えるでしょう。

今やあちこちの地で難問が日常化し、ロシアはウクライナに戦争を始めました。プーチン大統領は生命ひとつの大切さを思ってもみないようです。自分たちの名誉や国の方が大事ということでしょうか。

もともと一人の人の生命の大切さが貴ばれるなら、初めから戦いは起こらなかったはずです。人間のやることは、過ちにみちていると哀しい思いです。

私たちそれぞれが、自身の内面をよく見つめ、それを基にして、他の人、広くは社会との和解、差別ではなく共生、対立ではなく対話を求めて生きていく。困難もあるでしょうし、時にはでこぼこの道かも知れない。私たちにはそれしか出来ないし、不器用な歩みであっても諦めずに、一歩一歩と歩いていくだけ、そう確信しています。

ハンセン病療養所での日々、たとえ年を取ったとしても輝きを深めて生きていく。訪ねてくる人がいたら心をこめてもてなす。そんな普通のことを普通にやりながら生活する。

そこにこそ人としての輝きが自然と示され、私たちを魅了していく。そんな人と人との関係が成りたつように思うのです。

（好善社社員）

小さないのち　川﨑正明

散歩道で出合った美しい花と虫。思わず近寄ってスマホで撮影した。調べてみると、「ランタナ」という中南米が原産の花。鮮やかな色の花をつけ次第に変化する。花言葉は「心変わり」「厳格」「協力」「合意」など。よく見ると右上に、「おんぶバッタ」がとまっている。メスの背中にオスが乗るのは、「結婚する相手を離さない」ためだとか。花も虫も一生懸命生きている。

「花はなぜうつくしいか／ひとすじの気持ちで咲いているからだ」

（八木重吉）

足を洗うこと

宮内しおん

9月9日（月）に熊本市にあるコール館（旧待労院資料館）を訪ねました。待労院は1898年に、フランス人のコール宣教師が創始したカトリックの診療所です。そこで目にした「原点となった『足を洗うこと』」と書かれた写真に写っていたハンセン病を患った方の足を洗うシスターの姿を、私は好善社の阿部春代看護師の姿と重ねました。阿部さんが長年されてきたフットケアが、100年以上も前にも行なわれていたということに驚くと共に、時代を超えた何か不思議なものを覚えました。

「足を洗う」という言葉が表すものは、時代や宗教によって異なりますが、聖書の時代も、写真が撮られた100年前も、そして今でも、それがただ衛生のためだけの行為ではないと感じています。その人を訪ね、顔を見て話す―そんな時間が治療としての役割にとどまらず、「共に生きること」として時代を超えて続いているのだと思いました。

（タイ、ラオスキャンパー、大学院生）

全国療養所29教会の今

松丘保養園
単立・松丘聖生会。1920年発足。毎月1回、信徒の居室で礼拝を守っている。入所者が2名と、外部から数名が参加している。

松丘保養園
日本聖公会・松丘聖ミカエル教会。1912年発足。取り壊しの公告が出ている。信徒は不在で現在礼拝は休会している。

松丘保養園
松丘カトリック愛徳会。1957年立派な会堂を献堂。現在、会員が4名いるが、現在ミサは休止している。

東北新生園
日本新生キリスト新生園伝道所。1939年好善社の寄贈により創設。現在は別棟の集会室で、毎週数名参加し礼拝を守っている。

多磨全生園
日本聖公会・聖フランシス聖エリザベツ教会。1947年創立。1950年会堂建立。今は信徒不在で、活動を中止している。

多磨全生園
カトリック愛徳会。1931年創設。園内の宗教地区に2本の十字架が見える。現在3人ほどの信徒が毎土曜日のミサに出席している。

駿河療養所
日本基督教団神山教会。1951年発足。別の集会室で礼拝を行っていたが、現在会員は不在。

駿河療養所
駿河カトリック教会。1948年発足。カトリック御殿場教会の協力。現在会員3名がいるが活動は休止している。

長島愛生園
単立・長島曙教会。1931年創立。会堂は好善社支援で建立。現在大嶋良兵牧師。毎礼拝を行い3～6人が出席している。

菊池恵楓園
恵楓園カトリック暁星会。創創立は大正初期。1953年会堂建立。現在会員は19名。近隣の武蔵丘教会の神父が巡回、ミサを行っている。

星塚敬愛園
単立・恵生教会。1935年、沖縄からの移住者によって創立。2021年高齢化により解散。現在10人の会員が園内に残っている。

星塚敬愛園
星塚カトリック教会暁の星会。1949年創立。会堂は園外に隣接している。現在、会員7名がいるが、神父不在でミサは休止中。

奄美和光園
日本基督教団名瀬教会和光伝道所。数人の谷川集会が、1971年伝道所として独立した。会堂は好善社の寄贈による。現在は会員不在。

奄美和光園
カトリックダミアノ教会。1953年に創立。1967年会堂建立。現在7名の信徒がいて、毎週一回のミサを行っている。

東北新生園
単立キリスト教信交会。1939年発足。専任の牧師を立てず信徒のみで礼拝を守る単立教会。現在は会員不在で活動は休止している。

東北新生園
カトリック暁の星会1950年発足、3年後に会堂建立。会員は2名いるが、高齢で活動は中止している。神父も来園していない。

栗生楽泉園
日本聖公会・聖慰主教会。1939年献堂。毎月第2、4聖日は会堂で礼拝を行ない、第1、3、5聖日は信徒の居室で行う。出席は数名。

栗生楽泉園
草津カトリック教会。1956年創立。松林に囲まれた小さな家族的な教会。詩人の桜井哲夫が属していた。現在、一人の会員が残っている。

多磨全生園
単立秋津教会。1919年発足。現在5人の牧師が講壇を担当。6人の信徒が毎週の礼拝に出席。オルガニスト2人が協力している。

長島愛生園
長島カトリックロザリオ教会。1951年創立。毎月一回会員一人のために、神父が巡回して居室でミサを行っている。

邑久光明園
日本基督教団光明園家族教会。岡山県長島にある教会。第2と月末の水曜日の2回の礼拝。岡山博愛教会の渡辺真一牧師が代務。出席は数名。

大島青松園
単立キリスト教大島霊交会。会堂はヴォーリスの設計。教会は2015年で活動中止。今は毎月最終聖日に外部の有志で礼拝を守っている。

大島青松園
大島カトリック聖心使徒会。1950年発足。4年後に聖堂が建立。高松教区より神父が来園していたが、今は信徒不在で活動は休止状態。

菊池恵楓園
日本聖公会・黎明教会。1913年に発足。会堂は熊本地震で被災。現在園内の「やすらぎ会館」で、月3回の礼拝を行う。会員は数名。

沖縄愛楽園
日本聖公会祈りの家教会。1915年発足。現在、5人の会員があり、毎週数人が参加して礼拝を行っている。

沖縄愛楽園
愛楽園カトリック教会。1970年に創立。那覇教区に属して、必要なときには神父が巡回しているが、今は活動中止。

宮古南静園
日本聖公会聖ミカエル教会。1959年創立。当時の南静園内の他教派のキリスト教会から独立。現在数名の信徒がいるが、礼拝は休会。

宮古南静園
カトリック南静園教会。1962年聖堂建立して創立。コロナ禍以降、会堂でのミサは行われず、神父が各居室を巡回している。

宮古南静園
キリストの教会。1962年、会堂を建立して独立。南静園内に存在する3教会の一つとして活動。現在は会員不在で礼拝は休止中。

タイ国に広がる好善社の青年たちの活動。多国籍な交流の深まり

第18回タイ国青少年ワークキャンプ報告

2024年8月9日から12日まで、タイ国で行われるワークキャンプに参加する日本からの12名のキャンパーと6名のスタッフ、そしてラオスからの2名のNDC（ラオスハンセン病対策センター）職員を乗せた機体は、滑らかにナコンシタマラートの飛行場に着陸をした。

いよいよワークの開催地であるプットフォン元ハンセン病回復者村での3日間が始まる。過去17回のキャンプで、一度も開催されたことのない村である。バンコクから約720km南部に位置し、マンゴスチンなど数々の果物の樹木が豊富な南国の地である。この場所に、日本をはじめオーストラリア、ラオスの3か国から、またタイ国内のあちこちの村から、計70名以上の若者たちが集まってきている。

主催団体であり、好善社との姉妹団体でもあるチャンタミット社は敬虔なクリスチャンの集まりである。この日を迎えられたことを感謝して開会礼拝が行われ、キャンプはスタートした。

労働は主にタイル張り、外壁の塗装、トイレの増築と3種類に分かれていた。どれもキャンパーにとっては初めての経験である。多国籍の集団ゆえに、言語の違いからコミュニケーションは困難かと思われたが、皆笑顔で声を掛け合ってそれぞれの作業に汗を流している様子は、今回のワークの目的の一つである「労働を通して生きる喜び、活かされる喜びを知る」を具現化している姿であった。

そして今回、10年間使われていなかった建物を丁寧に掃除して宿舎として用意し、掃除だけでなく照明器具や電源など、また3日間の食事の準備もすべて行ってくくださったことには、この村の方々のキャンプへの期待を肌で感じることができて、本当に感謝である。

この宿舎で寝泊まりした時間、労働で汗を流した時間、多くの若者と笑顔で食事を共にした時間、この村の高齢者の元を訪れた時間、そして祈りの時間のすべてが、この地に来なければ体験出来ないことであり、喜びと感謝以外の何物でもない3日間であった。

タイリユニオン訪問報告

今回のワークキャンプから約2か月経過した10月12～13日、タイ国中央部に位置するピサヌロークで、リユニオンが開催された。日本からは私を含め、今年のキャンプで一緒だった2名のキャンパーと、現地からの阿部春代看護師が合流しての参加である。

リユニオンは、その年のワークキャンプの総括・振り返りをし、次回キャンプに活かす集まりである。タイ国内各地から今年のキャンパーも数多く参加していた。

ワークの時と同様に、礼拝から始まり、それぞれが真剣に今回のキャンプで感じた意見を述べ合った。皆が次回をより良いものとするために、とても有意義な時間であった。また、この時間は再会する喜びを実感するものであったことも忘れられない。

翌日曜日、会場から少し離れたバンクランという元ハンセン病回復者村で、高齢の教会員の方と子どもたちと共に礼拝することができたことはとても素晴らしい時間であった。今回、この村を訪問できたことが何よりも大切だったように思う。ワークのキャンパーとの交流を深め、今回が初めての村を訪問して新しい出会いを持つことができて、多くの恵みが感じられる感謝の日々であった。

（報告者＝加藤裕司代表理事）

好善社短信

◆第92回瀬戸内集談会＝7月11日、大島青松園で行われ、阿部春代社員が「手足を洗う―ハンセン病回復者と看護師」という題で講演した。

◆長尾文雄さん（好善社社員）追悼記念会。6月23日（日）午後3時から関西学院会館で行われた。主催は関西いのちの電話、好善社などで、好善社から社員3名が参加した。

◆好善社ブックレット発行（6月25日）。25川﨑正明「ハンセン病療養所に生きる人びとの『生きた証』」。26黒尾和久「人間の尊厳を問う」～ハンセン病差別と隔離～。

◆療養所教会礼拝説教に協力。教職（牧師）社員である三吉信彦理事、川﨑正明理事、棟居勇監事が毎月一回、多磨全生園内にある秋津教会の礼拝説教を担当している。

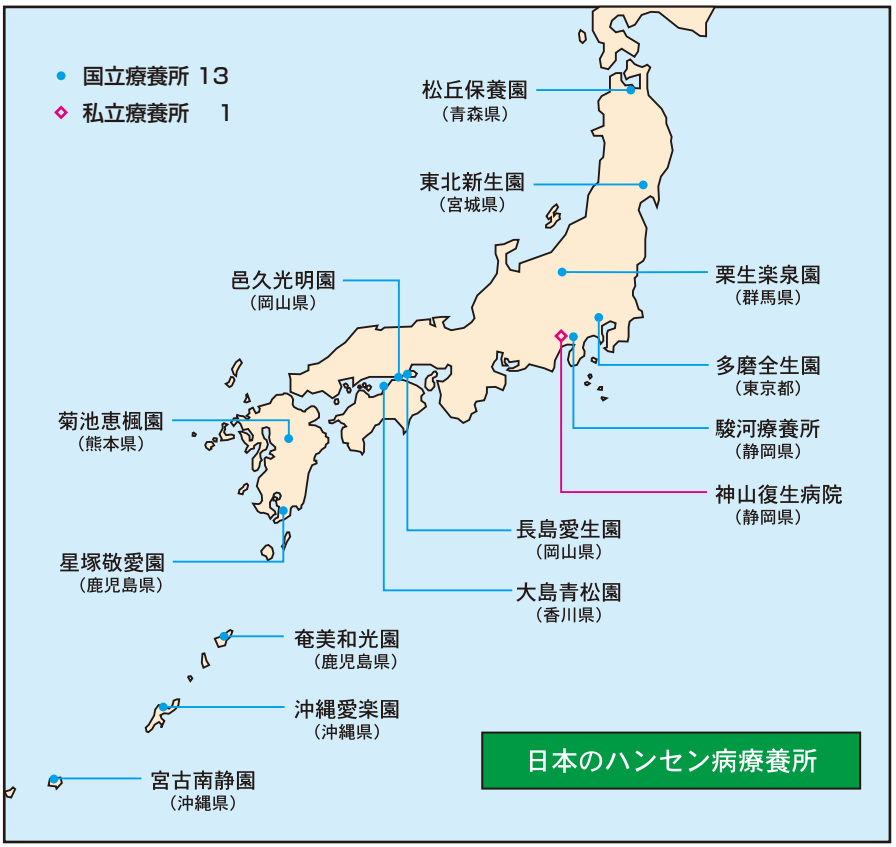
◆女子学院バザーに参加
11月9日（土）女子学院のバザーに好善社が参加した。好善社関係者が、タイ国で買い集めた民芸品などを出品。売上金はタイ国ハンセン病施設教育基金に当てられる。

◆多磨全生園自治会発行機関誌「多磨」に、川﨑正明理事がエッセイ「人生の並木道」を連載、2015年から2024年10月号で110回を数えている。

国立療養所　入所者数
2023年5月1日現在

	男	女	計
松丘保養園	17	24	41
東北新生園	7	19	26
栗生楽泉園	17	15	32
多磨全生園	37	57	94
駿河療養所	18	18	36
長島愛生園	44	39	83
邑久光明園	24	31	55
大島青松園	17	13	30
菊池恵楓園	47	80	127
星塚敬愛園	25	34	59
奄美和光園	3	8	11
沖縄愛楽園	41	48	89
宮古南静園	16	19	35
24年5月計	313	405	718
23年5月計	357	453	810
前回比	-44	-48	-92

2024／全療協提供　現在平均年齢88.3歳



１２月・クリスマス募金のお願い

国内とタイとラオスのハンセン病に関わる好善社を支えてください！

2024年度募金（会費・寄付）目標額　1,000万円

ハンセン病問題の今

日本国内のハンセン病療養所は、2024年5月１日現在の入所者数718人、平均年齢88.3歳となっています。平均年齢90歳近い回復者のみなさんが、高齢者一般の健康問題をかかえての日々を過ごしています。

ハンセン病問題は1996年「らい予防法」廃止後、「国家賠償請求訴訟」原告勝訴、「ハンセン病家族訴訟」原告勝訴による「ハンセン病家族補償法」が成立し、元患者と家族の社会的復権が果たされましたが、社会になお残る偏見・差別の十分な解消に至ってはいない現状です。

国内ハンセン病啓発・支援事業

◆全国13ヵ所の療養所訪問・交流活動。
◆偏見差別解消のための講演会・出版・啓発活動 。
◆回復者・入所者のいのちの尊厳の保障、名誉回復が家族まで及び、ハンセン病問題の最終的な解決の実現を願っての支援と啓発活動。

2024年度収支予算（抜粋・単位円）

支出		
療養所訪問・広報宣伝費		2,970,225
海外国支援事業		
	・チャンタミット社支援	1,500,000
	・ラオス支援（友愛基金より）	2,000,000
	・専門家派遣（看護師）	2,200,000
	・現地調査・交流費	4,200,000
事業管理費		8,440,000
収入	会　費	3,400,000
	寄　付	7,500,000
	雑収入	20,000

タイとラオスのハンセン病回復者支援事業

今年度990万円の活動費が必要です

訪問先で、高齢者を訪ねるユパー理事長と阿部看護師（右から２人目）。

好善社の姉妹団体チャンタミット社創立者故カンチャナ医師の遺志を受け継いだ、元事務局長ユパーさんは8月の第18回ワークキャンプ後から活動をはじめ、回復者村の訪問に力を入れています。

阿部春代

◆好善社は、1982年からタイ国のハンセン病にかかわり、同国のハンセン病支援団体チャンタミット社運営の側面的支援を継続している。他に阿部春代社員を1991年から2019年まで29年間、東北部の病院へ派遣した。なお、その後も好善社のタイ国での事業支援は継続している。また2016年以降、タイの隣国ラオスのハンセン病回復者村との交流を重ね、今年2月に同地での初めてのワークキャンプを実施し、村民と共に小学校の坂道のコンクリート舗装を完成できたことは、村民の大きな喜びとなっている。

公益社団法人　好 善 社　　2024年11月25日
代表理事/加藤裕司
理事/三吉信彦 川﨑正明 阿部春代 乗　圭子 藤原真実
岡田祐之 渡辺圭一郎　　監事／棟居　勇

〒153-0065　東京都目黒区中町１丁目７－４　電話 03－3712－3845　FAX：03－3791－1150　振替口座 00160－7－70163
Email:kozensha@kt.rim.or.jp　ホームページ・URL：https://kozensha.org/